

第4回稲毛区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【1】開催

日 時 平成19年2月17日(土) 午前10時～午後12時15分

場 所 稲毛区役所 3階 講堂

出席者 委員23人(35人中)、ガイドヘルパー1人、手話通訳者2名、傍聴人1名
事務局及び市職員9人

【2】委員長挨拶

【3】議題

(1) 地域での福祉活動状況についての情報交換

地域での福祉活動に関わる5人の委員から活動状況の報告を行った。説明後、意見交換等が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

ファミリー・サポート・センターの活動報告

委員より、千葉市ファミリー・サポート・センターの活動内容及び現在の依頼会員・提供会員・両方会員の人数及び稲毛区内の利用状況等についての報告があった。

(委員) 会員登録をしていない人でも、急に必要になったとき、対応をお願いすることは可能ですか。

(委員) (提供) 会員の数が多くいるので、対応は可能です。

知的障害者通所更生施設「でい・さくさべ」の活動報告

委員(代理)より、「でい・さくさべ」の運営母体「社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会」のこれまでの歩み、地域との繋がり、活動内容についての報告があった。

・特に質問なし

肢体不自由児者父母の会の活動報告

委員より、活動内容及び肢体不自由児者の家族の気持ちを説明。また、神奈川県の養護学校設立に関する計画を踏まえ、千葉市に対しても要望活動を行っている旨の報告があった。

・特に質問なし

老人クラブの活動報告

委員より、活動内容と会員及び参加者が増えず、広報・PRの方法についての課題があるとの報告があった。

・特に質問なし

地域の福祉活動者の活動報告

委員より、障害児の親子の会「ぐっぴいの会」の活動を報告。社会福祉協議会をはじめとする地域の福祉団体との関わりや、障害者と地域の交流の難しさについての説明があった。

- ・特に質問なし

最後に、稲毛福祉事務所長より、自立支援法施行に伴い、福祉事務所でも、対応に苦慮している旨説明があった。

(2) 地域福祉パイロット事業の申請状況について

事務局が、申請状況及び稲毛区地域福祉計画推進協議会において事前に具申しなかった案件（第3回の募集で1件）があったことについて説明を行なった。

小中台地区部会（地域子育てミニフォーラムの設置）

その後、本年度実施した（している）稲毛区の地域福祉パイロット事業のうち、会議当日に出席していた各地区部会所属の委員から、事業経過報告が行われた。

草野地区部会 【緊急時に備えた支援体制作り事業】

独居老人、障害者の緊急時の支援のため、マップ作りを自治会（草野地区部会は19自治会で構成）単位で作成している。避難場所や消火栓、また民生委員・児童委員、自治会長の所在地などを掲載。独居老人や障害者の所在地を掲載したいが、個人情報保護の関係で困難な状況。

小中台地区部会 【「一人ひとりが地域の力」事業】、 【地域（小中台）子育てミニフォーラムの設置】

地域におけるボランティアグループ及びリーダーの育成。地域清掃や高齢者の見守り活動、健康講座の開催など、3回実施。約50名の方が賛同し地域のボランティアとして参加している。

小中台公民館にて3月18日に子育てミニフォーラムのイベントを開催する予定。また、ゆくゆくは子育てサロン立ち上げにつなげていきたい。

千草台中学校地区部会 【千草台中学校地区防災対策事業】

首都圏において近い将来、大地震の発生が懸念されているが、不測の事態に備えて、地域の避難場所、広域避難場所、災害医療協力施設（当地区内）、各町内自治会の場所等地域の避難場所等を地図上に入れ、また、我が家の防災メモが記入できるなどの千草台中学校地区部会（第20地区）防災マップをカラー印刷し、地区内全戸に配布する。

山王地区部会 【安心カード作成と活用及び健康講座事業】

高齢者を対象とし、緊急時における本人確認カードを作成する。住所、緊急時の連絡先、かかりつけ病院等の情報をカードに記入し、緊急時に対応する。また、3月23日に「メタボリックシンドロームについて」の健康講座を実施する予定である。説明後、意見交換等が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

- (委員) 小中台地区部会の子育てミニフォーラムについてだが、事業はボランティアで、また、参加費は無料で開催しますか。
- (委員) ボランティアとして活動し、無料で開催する予定である。また、現在千葉市社協より子育てサロン 1 開催につき 1,500 円の補助金をいただけるので、それを活用していく予定である。
- (委員) 草野地区部会の「緊急時に備えた支援体制作り事業」に対してだが、草野地区のマップづくりは、民生委員・児童委員、自治会長、公園の位置などが分かるだけでも、素晴らしいマップだと思う。
今後、どのレベルまでマップに落とし込んだ段階で、配布を予定しているのですか。
- (委員) できるだけ完全なものにしたいが、個人情報の問題もあり、民生委員の協力のもと個人の承諾が得られれば、独居老人の記載まではやりたいと考えている。現段階では、障害者までの記載は難しいと考えています。来年度以降の課題です。

(3) 推進協だよりの発行について

事務局より、推進協議会だより第 2 号の発行について、(案)を説明した。

- ・特に意見、質問なし

(4) 19 年度の推進協議会について

【事務局説明】

委員の改選について

委員の改選方法について、事務局より説明。協議会運営の継続性という点から、現在の委員に出来るだけ継続をしてもらうよう希望。

(次年度の) 取り組みについて

次年度の推進協議会における取り組みについて、事務局より説明。今年度は、「推進協議会」初年度であり、地域住民に計画を周知するため、広報・PR と委員の所属団体等での福祉活動状況について情報交換を行った。

次年度は、「地域福祉計画」が地域住民に十分浸透されていないことから、引き続き広報・PR を重点的に取り組むとともに、パイロット事業等、新たに地域で行っている福祉活動について、意見交換を予定。

第 1 回目の開催は、5 月下旬から 6 月上旬頃を予定。

- ・特に質問・意見はなし

【委員提案・発議】

委員より次の事案について提案説明があり、その後、提案に対する意見交換が行われた。

地域福祉計画推進協議会のあり方

地域福祉計画の「取り組み状況の把握」に向けて

地域福祉計画推進協議会のあり方について

(委員の提案説明)

推進協議会の活動は情報の交換だけでよいのか。それで計画の推進ができるのか。今一度、推進協のあり方について委員の間で話し合い、来年度の取り組みに反映させたい。

- (委員) 委員1人1人から今年度の感想・意見を聞きたい。
- (委員) 地域福祉計画の担い手の中心は、社協地区部会である。地域福祉計画を推進していくためには、地区部会がどう活発に活動していくかである。19年度も、今年度と同様に、地区部会がどのような活動をしているかを報告し、また地域内での活動者の情報交換を行うべきで、今更、テーマを決めるとかどうこうするというのはおかしい。
- (委員) 計画の担い手は社協地区部会だけではない。計画を作ったときの思いがどのように実現されるのかということをお話し合っていない。何のために集まっているのか分からない。
- (委員) 社協が計画の中心であるということをお話し、今日、初めて知った。推進協は、社協の下請けではない。
- (委員) 稲毛区の計画をどう推進するかが会議の中心となるべきなのに、このまま情報交換主体でいいのか。例えばパイロット事業の報告を聞いて、それをどのように稲毛区全体に広めていくのか、そのようなことを話し合うべきではないか。
- 計画を推進するには、広報・PRしかないと思う。
- (委員) 私も推進協のあり方がよく分からない。計画を作ったことで第1段階は終わった。第2段階は計画の実行ではないのか。実行の主体はやはり、町内自治会、民生委員・児童委員等様々な団体で構成されている地区部会ではないか。社協にお願いしなければ計画は進まない。パイロット事業を今後も進めていくべきだ。
- (委員) 私達の地区では、この地域福祉計画及び地域福祉の推進について根底にある担い手は社協だと考える。私は、この場に地区部会の部会長として出席しているが、パイロット事業は、行事、スケジュールがいっぱいでとても手が回らなかった、すでに目一杯活動している。私が部会長を務めている地区部会では、自治会や民児協などすべての公的な団体が組織構成員としてたくさん入り充実している。常任理事会を毎月開催し、行事をどう進めていくか話し合っている。よって地区部会の部会長が全てを決めているのではなく、参画している各分野の代表者で決定している。
- また、地域福祉は自助及び共助が中心となるべきで、今後も、推進協に様々な団体が参加し、参考となる活動等を発表し合い、意見交換等をしていけばよいのではないかと。

- (委員) 9つの地区部会が、それぞれやっていることは素晴らしいと思う。ただ、(報告のあった)ぐっぴいの会のように従来型の組織に参加しづらい側面があることも理解するべきである。地区部会が、子ども、高齢者とか横断的にやっていければ良いと思う。
- 推進協では、地区部会だけが(地域福祉を)やっているということではなく、誰でも参加できる、入っていける仕組みづくりなどを話し合っていくべきである。
- (委員) 私は、ぐっぴいの会と同じ地区で活動をしている地区部会の役員である。これからも、ぐっぴいの会と出来るだけ連携を図れるようにしていきたい。また、本地区も自治会長始め、地区部会には様々な地区の代表の方々が入り連携をしている。
- また、今回のパイロット事業によって、地区部会が活性化されたと思う。
- (委員) 地区部会が頑張っているのは分かっている。この計画は、国がつくって下りてきているもので、住民皆でやろうということ、計画は地域のそれぞれが手を携えて進めていくべきである。
- ただし、地区部会はどこも手一杯ではないか、だからこそ NPO・ボランティアなどと連携していくべきではないのか。この計画は、地域住民に分かってもらうべきであり、これにより計画が成功する。
- 担い手は、地区部会だけではないし、地区部会だけだというのなら、推進協など開催せずに地区部会だけでやればよい。
- (委員) 推進協には、様々な分野の委員がいるのだから、地区部会だけではなく、自治会や民生委員・児童委員にも活動内容がおりてくると思ったが、地区部会から報告がなされていない。地区部会が地域に根付いていないということではないか。来年の推進協をどうするか、地区部会という立場ではなく、推進協のメンバーとして発言して欲しい。
- (委員) 推進協の委員には、会議で話し合ったことを地域で伝えて欲しいということだが、地区ではなかなか PR できない。そういった意味では、自治会長の皆さんに参加してもらうのも良いと思う。
- 稲毛区では、パイロット事業が 10 も申請されたのだから、各自治会長などが推進協に出席してどういう良い取り組みがあったか聞いてもらいたい。
- (委員) 第 3 回の審査会でパイロット事業を申請した小中台子育て応援しよう会のメンバーですが、今回のパイロット事業(子育てミニフォーラム)は会が考えていたことで、パイロット事業を良い機会に小中台地区部会にお願いして実現したものである。企画・実行は会が、地区部会にはお手伝いをしてもらった。パイロット事業の広報をもっと強化すれば、このような連携が他にも生まれると思う。
- こうした活動を広げていくことが、この推進協の役割ではないか。
- (委員) 私たち委員も、とても忙しい行政、委員長に任せきりであったことを反省すべきだと思う。
- 提案したい。推進協議会の運営を行政や委員長にお任せするのは間違いであ

った。推進協の委員の中でどうするのか決める特別な組織が欲しい。

- (委員) 今年度、推進協というつながりで、せっかくこれだけのメンバーが集まったのに、お互いに何も知らない。可能な人だけで結構なので、名簿を作ってもらえないか。
- (事務局) 名簿は、個人情報保護条例の関係もあるので、次年度に作成するかどうかを検討したい。

地域福祉計画の「取り組み状況の把握」に向けて

(委員の提案説明)

情報交換だけで時間を費やすのは、もったいない。計画を推進していかなければならない。

パイロット事業は、地域福祉計画の事業と連動していることがある。地域福祉計画推進協議会としてパイロット事業の内容を知ることは、設置要綱上「地域福祉計画の取組状況の把握」につながる。「地域福祉計画に関する広報」という側面からも「パイロット事業報告会」を実施すべきである。会を開催するため委員間で事務局を設置し、その中で次年度の推進協の方向性についても考えていきたい。

- (委員) 一般の人にも参加し、知ってもらうための報告会を望む。地区部会の取り組み、及び地域福祉計画の周知にも役立つ。
- (市職員) パイロット事業報告会に関連して情報をお伝えするが、パイロット事業は、本年度、市内全域で、45 の地区部会において 63 件の事業が実施された。申請のあった事業は、どの事業も地域の創意工夫により申請された素晴らしい事業ばかりであり、特に稲毛区で申請のあった 10 件の事業は、他地域の模範となるような事業であった。そこで、こうした活動事例を有効に活用していくため、社協本部と協議しているところであり、社協本部ではパイロット事業の事例を冊子などにまとめることを検討しているようである。また、パイロット事業だけに限らず、市内で実践されている地域福祉活動を広く市民に紹介する必要もあると考え、本庁保健福祉総務課では、来年度のことなので確定ではないが、市内で行われている地域福祉活動を紹介する「(仮称)地域福祉活動事例集」の発行を考えているところである。こうした市内で行われている活動の実践事例を関係団体、市内公共機関の窓口などに配布し、広く市民の皆様役に役立てていただきたいと考えている。委員から提案のあった報告会、フォーラムの開催とは対案ではあるが、冊子の配布というかたちで、地域福祉を推進していく。
- (委員) 活動事例を冊子にすることは結構だが、活字では読まれない。様々な方法で周知しなくては。広報の方法を考えるべきで、報告会の中で事例集を配布するなどした方が効果的であると思う。
- (委員長) 報告会の開催については、次年度の推進協議会で話し合うべきではないか。
- (委員) 次回推進協開催予定の 5 月までは間が空きすぎる。次回の推進協を待たずに

推進協の主催で報告会を行いたいが、どうか。

- (委員) 私は来年度の推進協委員も継続するつもりでいる。また、フォーラムの事務局もやるので、有志の推進協委員で報告会を開催させて欲しい。また、来年度第1回目の推進協で概要が報告できるように、すぐにスタートさせて欲しい。やるかやらないかを、この場で決めて欲しい。
- (委員) 今年度も、推進協においてパイロット事業の報告はしているし、来年度も推進協の中でやればいいのではないか。
- (事務局) 来年度の推進協の中で、一般市民の傍聴人を入れて行うことは可能である。また、区民まつりの一環として、その中で開催することなども考えてはどうか。
- (委員) 推進協の中でやるのではない、意味が違う。一般市民を対象としたもの、地区フォーラムのようなものをイメージしている。
行政任せにするのではなく、私たち委員が主体となって開催する。この場で決めて欲しい。
- (事務局) 今年度の推進協では、パイロット事業を取り上げ、参考となる意見をいただいた。また、来年度はパイロット事業の事例集なども発行されるようである。来年度は、推進協の中でパイロット事業の報告をしていきたい。

(5) その他

- (委員) 今年度は、土曜日開催であったが、私たちは地域で様々な役を持ち、休日に活動をすることが多いので、休日に集まるのは難しい。平日に開催してもらえないか。
- (事務局) 平成19年度の推進協議会の開催日(曜日、時間)については、来年度の委員との間で調整して決めたい。
委員の皆様、1年間お忙しい中、稲毛区地域福祉計画推進協議会にご参加の上、いろいろとご貴重なご意見をいただきまして有難うございました。

以 上